

## 第二期武蔵野市観光推進計画 第2回策定委員会 議事要録

### 【会議概要】

日 時	平成28年8月17日(水) 午後6時～8時
場 所	武蔵野市役所 西棟4階 412会議室
出席委員	小田宏信委員長、林聖子副委員長、稲垣英夫委員、花俣延博委員、麻生日佐子委員、井柳南進委員、中村光治郎委員、福島和仁委員、松倉晋委員、八尾明美委員、武藤毅委員、小島祐一委員
事務局	生活経済課 西川課長、平塚課長補佐、大久保主任 パシフィックコンサルタンツ株式会社 4名
傍聴者	4名
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 武蔵野市における観光推進の目的について (2) 武蔵野市の観光の現状について (3) 目的達成に向けた課題について 3 その他
配布資料	第二期武蔵野市観光推進計画 第2回策定委員会 次第 資料1 第二期武蔵野市観光推進計画 第1回策定委員会会議録 資料2 第二期武蔵野市観光推進計画 第2回策定委員会 参考資料1 上位関連計画における観光の位置づけ 参考資料2 武蔵野市の観光地としての評価 参考資料3 武蔵野市観光推進計画第2次アクションプラン(平成27年度～28年度)進捗状況調査結果

### 【議事】

#### 1 開会 2 議事

##### (1) 武蔵野市における観光推進の目的について

事務局	～資料説明～
委員長	議事の(1)の観光推進の目的についてのご意見はあるか。かなりわかりやすくまとめていると思う。
委員	観光推進の目的で「愛着や誇りの醸成」というものがどういうことかピンとこない。
委員	確かに他の観光地での観光推進計画にはこういう言葉は出ていないが、あくまでも観光資源がない都市観光を進めている自治体の観光計画であるということで、この言葉が出てくる。市民自体が観光資源という捉え方をしていく必要があるということだ。
委員	都市観光の基盤としてここに暮らす人や働く人が、地域に誇りを持つということは大切だと思う。まちを良くしよう、来た人に喜んで帰ってもらおうという根源になる。世界のいろいろな都市を見ても自分の住んでいるまちに愛着を持って整備して多くの人に来てもらおうという精神的な作用が働いている。これが前提となって活力ある市が実現されるということで、私としては特に異論はない。
委員長	世界の地域経済が成功した都市の例を見ると、自分の地域に愛着を持って社会的なネットワークを形成しながら地域を作っているという経験的な事例もある。
委員	参考資料2の9ページに地域に誇り・愛着を持つ市民が減少したとあるが、これは武蔵野市だけのことなのか、日本全体でそうなのか。また、なぜ減ったかということがもし分かれば、アクションをとることができるような気がする。

事務局	市民意識調査については基本的に毎回同じ項目で調査し、その項目に対する増減を見ている。それに対する理由はこの項目では聞いていない。傾向として見てもらうための資料として今回お出しした。
委員長	世代的なものが大きいと思う。他の市町村と比較したデータはないかと思う。
委員	前回の計画策定時も市民の愛着や誇りというのは問題になった。自分達の土地柄や風土を愛することによって、よその人からもあのまちはいいまちだという評価がされるということでこういう言葉がでた。住む人が魅力づくりや価値を発見することによっていろいろな人が集まってくるので、私はこれも必要だと思う。
委員	私もそう思う。ここはお城や山などの名勝地がある観光地ではない。都市型観光をめざそうというのであれば、人それぞれが観光資源になってもらわないといけないと思う。
委員	観光のために道をきれいにすることで、市民生活の質の向上にもつながるということが大きな目的としてあったと思うが、「愛着や誇りの醸成」ではそれが省かれてしまっている。家の塀を垣根にすることは観光のためでもあるが、市民生活の質の向上にもなるという精神的でないものが抜けてしまっている。「市民生活の質の向上」が「愛着や誇りの醸成」となることで、市民からすると手ごたえのあるメリットがなく、こちら側の問題にされてしまっている。
委員	今回の資料で目的と目標の定義を明確にされているのはよいと思う。目的というのは抽象的な表現で、道路の整備などは具体的な目標として誇りや満足を得るためにやっていくということでもいいと思うが、大上段は「愛着や誇り」という表現を用いていいと思う。
委員	私は市民生活の質の向上の中に、愛着や誇りの醸成もあるし、具体的に住みやすいまちということもあると思うので、「市民生活の質の向上」の方が上のレベルになると思う。
委員長	武蔵野市はコミュニティ活動を続けてきた地域であるので、むしろみんなで主体的に地域づくりをやっていこうという風土を今後も維持するというニュアンスだと思う。
委員	その目的が「市民生活の質の向上」ではないかと思う。
委員長	これは少し表現を検討していただく。
委員	ソフトだけではなくハードも都市観光の視点で整備するという事も入れる必要があるかもしれない。
委員	平成19年の武蔵野市観光振興計画にあった3つの意義の中の1つの「市民生活の質の向上」が、何故今回「愛着や誇りの醸成」にわざわざ悪く変えられたのか不思議に思う。
委員	「愛着や誇りの醸成」の説明の中になじむかどうかかわからないが、「新しい観光資源の創造」というものが入るといい。今ある資源と新しく作り上げていく資源があると思う。
委員長	市民の方や地域で働いている方が自ら地域を認識し、その上で資源を発掘するということか。
委員	発掘するという事はすでにあるということだが、新たな観光資源を作るということでもあると思う。武蔵野吉祥七福神めぐりは観光資源として新たに作ったものだ。
副委員長	今の「新しい観光資源の創造」に賛成だ。言い換えると価値や強みに気付いてそれらを伸ばしていくということだと思う。この目的の中に言葉としては強くなりすぎるかと思うが、そのようなニュアンスも含められるといい。「新しい観光資源の創造」はそれとニアリーイコールなのではないか。観光計画なので「イノベーション」という言葉まで入れるとニュアンスが違うかもしれないが、「サービスイノベーション」という言葉を入れてもいいかと思う。
委員長	最近「立地創造」という言葉があるが、新しくそのまちの魅力を作り出していくというニュアンスの言葉が目的に入ってもいいと思う。

委員	あらゆる資源を活用して新たな観光資源を作り出すと理解していたのでこの中に含まれると思っていましたが、もう少し前面に出してもよろしいと思う。観光施策としての積極性を打ち出す意味でよろしいかと思う。
----	---

## (2) 武蔵野市の観光の現状について

### (3) 目的達成に向けた課題について

委員長	次に具体的な各論に入っていくが、現状と課題を別々に議論するのは難しいと思うので、(2)と(3)はまとめて議論していきたい。
副委員長	今日は中央線が人身事故で止まっていたが、京王井の頭線を使ってくるのができた。住んでいる方はお気づきではないかもしれないが、交通アクセスの良さが現状の強みとしてあると思うが、資料には書かれていない。バスの路線も含め、いくつかのものの行き方があるということは強みと捉えてもいい。
委員長	確かに都心から距離感を持っている方が多い。実はアクセシビリティがいいということを打ち出すということは重要かもしれない。
委員	空港へ行くバスが便利で、吉祥寺界限や三鷹の方も利用されている。またお台場など都心と結ぶバスもある。これを発展させていただければと思う。
委員	今都心のマンションが流行っているが、その方達にとって農業にふれられる、一番近い場所なのではないか。三鷹へは新宿から特快で13分なので、PRしていい。
委員長	JRが「中央線が好きだ」というコピーでうまくPRしてくれている。
委員	武蔵境でも野菜塾をやっていて大変人気がある。確かに自然にふれたいという人は多く、武蔵境が中央線で一番の近場だとしてPRしていたが、バスタ新宿の上に野菜塾が出来てしまったのでそう言えなくなってしまった。
委員	新宿の南口の屋上農園は利用料が高く、ターゲットとする層も違う。一般の人向けには、周辺環境が自然に恵まれた三鷹や武蔵境も大丈夫だ。
委員	第2次アクションプランについて説明していただいたが、今度の策定委員会でアクションプランまで作るのか。
事務局	先ほどご説明したアクションプランは今年度までの具体的な観光施策の内容になっている。今回ご議論頂いている観光推進計画は、そもそもの目的とか目標を示すものである。またそれを達成するための具体的な施策についてもこの計画の中に入れていく必要がある。それは前段が定まってからになるので、会議の回数の中では後半の議論になると思う。
委員	今回は推進計画の中にアクションプランも入っていくということでもいいか。
事務局	アクションプランという名前ではないが、施策の形で入ってくる。
委員	これからの課題としては農業体験や工場見学などの体験型の観光が足りていない。武蔵野市内には工場見学できる場所があまりないので、三鷹市など周辺区市まで足を伸ばしてもいいと思う。例えば調布航空宇宙センターや、自動車工場なども入れてもいい。
委員	このアクションプランはたくさんのおおやりになっているが、観光機構では人材不足という課題がでている。これをどのように解決していこうとしているのか。
委員	これから計画書ができ、この事業をやっていくとなれば人は入れなければならない。私は人件費くらいは観光機構で稼いでいきたいと思っているが、かなり大きな事業計画のためできない。私は市の委託ではないと思っているが、市に人件費の面倒をみていただくということは必要だと思う。それは観光機構自身がこの目的に書いてある市の活性化ということをやるとのことなので、市からのお金で運営していくのは十分ありうる。
委員	人材不足を課題としてあげたのは、この計画で観光機構の事業を拡大するとなれば、現状の人材ではとても対応できないという意味だ。現状のままであればこのま

		までやっていけると思う。
委員	員	必要な人材であれば、確保して増やしていかなければ実現できない。
委員	員	正直に言えば一人で何役もやっている。人手不足は慢性的になっている。今後事業を拡大するとなれば、その分野によって専門家を雇っていく必要がある。アウトソーシングする部分があればやっていくが、協力体制が必要だと思う。
委員	員	人の問題は、JTBから観光の専門家として2人来ていただいている。またパートなどセクションごとに持ち味をもった人を雇っている。
委員	員	高い目的を作るのはいいが、実際に実行される部隊の人材が足りなかったり、力が足りなかったりすると、せっかくいいことを掲げても実現できない。必要なところは手を打つべきだと思う。
委員	員	前回の策定時、他市の事例を研究したが、他市の観光協会は駐車場を自治体から借り受けて、その費用を観光協会に入れるといった費用を稼ぐエンジンを持っている。武蔵野市観光機構にはない。根本的な問題も頭に入れて検討している。
委員	員	市民の理解を得ているという立場で、時には投資も必要だ。5年先、10年先を見た決断が必要だと思う。
委員長	員	観光ボランティアの今後の担い手はいかがか。
委員	員	<p>今募集しているところだが、最初は関心を持って入っても、運用の方法でやめていってしまう人が多い。運用方法をもう少し緩やかにしていかなければいけない。また観光ボランティアに参加していただくために、武蔵野市を観光都市武蔵野ということで、市民にアピールした方がいい。市民の協力と理解がないと観光ボランティアガイドはいったい何をやっているのかということになってしまうので、市でもきちんとやって頂かないといけない。観光ボランティアガイドは、武蔵野市のことを知っていただくために、路地に入って案内することもある。そうすると年に1回あるかないかの頻度ではあるが、うるさいという声を頂くことがある。武蔵野市に住んでいる人が、自分達の街がいいところだということを知って頂ければ、理解は生まれてくる。</p> <p>40年前よりきれいなまちになっているし、資源としては、江戸の三大上水を抱え、武蔵野台地上で地盤も安定している。またお互いにコミュニケーションできる場がある。非常に付加価値のある場所だ。東京都の奥座敷、離れという感じのおもてなしができるまちになればいいと思う。</p> <p>観光という旗印があって、私たちも協力しようという雰囲気になれば、観光ボランティアに参加する人も増えてくるのではないか。外国人のおもてなしも英語が話せないといけないというのではなく、おせっかいでもいいからちょっと案内するおせっかいおじいさん、おばあさんが増えればもっと楽しいまちになるのではないか。</p>
委員	員	観光文化都市武蔵野宣言とでも称して、市民運動につながるような10年20年のムーブメントがあると変わっていくと思う。長期的にこういうことを目指そうという市民宣言があるといろいろなベクトルがそろってくると思う。
委員	員	そうするといろいろな人に参加していただける。ハードルを低くしながら、目標を高くしていけばいいと思う。
委員長	員	23区と多摩の結び目にあるという立地条件が重要になってくると思う。武蔵野台地の尾根の部分にあって、東京の水は武蔵野を通らないと供給できないので、その存在感を観光文化都市という形で主張するというのも確かに素敵な話だと思う。
委員	員	文化人の方がたくさん住んでいるという意味での文化も観光資源として大きい。
委員	員	家賃や地価が高いといわれているが、逆に考えればそれにふさわしい価値のある環境づくりをすることが望まれるし、それができれば決して高くない。愛着や誇りを持って自分達が住むまちの価値を高めていくことが起点になって、いろいろな企画がされればうまくいくと思う。
委員	員	3つの上水は一つの歴史であり、文化であり自然である。しかしその上水に車で行く

	<p>こうとしても停める場所がなく、路上駐車しないと見られない。観光資源化するにはそれなりの整備が必要でそれなりの金をかけなければならない。</p> <p>食についても本当においしいお店があっても、商店会連合会に入っていないという理由でガイドブックに載せられないことがある。そういうしぼりは排除し、いいものはいい、うまいものはうまいでPRして発信していくことが大事だ。</p> <p>観光に関する予算は市でも今後予算組みをしていかないと成り立たないということ認識してもらいたい。むさしのばやしは、市の無形民俗文化財に指定されているにも関わらず、金はほとんどかけていない。きちんとやろうとすればするほど金はかかる。観光機構のシティプロモーションにしても、人は明らかに足りていない。</p> <p>武蔵野市は吉祥寺、三鷹、武蔵境と3つの駅を持っている。駅を持っていない行政エリアも多い中で、駅を持っているということは市として幸せなことだ。またバス路線は武蔵境や三鷹の約倍以上の数の路線が吉祥寺に流れ込んできている。交通機関が一つの観光手段なので今後も考えていかなければならない。</p>
委 員	<p>新宿の高島屋がオープンした時に、その目玉の1つとして、東京都内の一流パティシエを選んでそのケーキを決まったそれぞれ決まった曜日に入荷するという店ができた。それに武蔵野市から唯一選ばれた評判のよいケーキ屋がむさしのプレミアムに入っていないのがっかりした。むさしのプレミアムを継続するのであれば、そういう店にこちらからお願いして掲載していかないと、むさしのプレミアム自体の評判があまり良くない。名物にうまいものなしという感じだ。</p>
委 員	<p>あくまでも認定制度なので、これからどんどん進化する。3年目を迎えて制度改革をしようというのが今年のテーマになっている。スーパープレミアムというのも検討している。今の意見も貴重な意見として受け止めたい。</p>
委 員	<p>厳しいご指摘を頂いたが、むさしのプレミアムは市長が会議等に行く時に武蔵野のお土産が地粉うどんくらいしかないということで、新たなお土産を作らないといけないということで始まったものだ。皆さんに募集するという方法をとったので、おいしいお店にお願いしに行くということはやっておらず、次の段階かもしれない。特選品というところまでなっていないものもあるかもしれないが、やっている人は一生懸命やっているのだからどうかよろしくお願ひしたい。</p>
委 員	<p>個人的には全く問題ないと思っている。中には疑問を持たれるものもあるかもしれないが、売っている立場からすると、こういうものもあったのかとお客様にお喜びいただいているものもある。これから進化することなので、これから発掘していけばいいと思う。</p>
委 員	<p>お願いしても入ってくれないケースもあるし、逆に隠れた名店も発掘できるケースもある。すでに有名でどなたも認めるものをプレミアムに認定することも必要だと思うが、育てていく、発掘するという意味では武蔵境や三鷹にもいいお店はたくさんあるということはこの制度を始めて感じている。</p>
委 員	<p>具体的なものを長年にわたって定着させるというよりは、そういうことにチャレンジする人がいて、〇年度プレミアム認定品といった形で次々に工夫されたものが出てきて、今年のお土産はこれという取組みであってもいいと思う。門前町でも城下町でもないの、定着したものはなくてもいい。むしろそういう活動を市がやっているということがアピールになると思う。</p>
委 員	<p>まち案内所でも助かっている。聞かれた時に冊子を出すことで、この中から選んでくださいということが出来る。個人的においしいと思うところも入っている。こういうものがあると紹介し、そこから進化する意味でいいと思う。好みもあるのでいろいろんな選択肢があってもいい。</p>
委 員	<p>とても評判がいい店が抜けているので、それを取り込むことによってむさしのプレミアム自体のブランド力をあげるということは考えた方がいい。そもそも、このようなものは、最初の年に、評判のよい店に応募をお願いして、他の店も選ばれたたい</p>

		と憧れるようなプレミアムにするのが手順の基本だ。
委 員	員	そこにしぼりがあり、出したくても出せないという難しさがある。冊子に載せる広告料を出せないとか、これ以上お客さんに来られても困るということで掲載を断るお店もある。それをなんとか越えていかないと本当のいいものはできない。
委 員	員	テレビに店がでると、問い合わせがあつてまち案内所でも紹介するが、そのお店のオーナーとお話すると、地域の方にお菓子を供給したくてやっているとおっしゃっていた。お店にもいろいろと考えがあるので、おいしいから出せばいいという問題でもないと感じる。まち案内所もしぼりがあるところだが、コンシェルジュがおいしいと感じるものを、遠いお店でもなるべく発信するようにしている。一対一なので拡散することはないと思うが、おもてなしという形でやっている。
委 員	員	観光機構で出している吉祥寺のマップは、市で予算組みしているので、商店会連合会には加入していない店も入っている。まち案内所に問い合わせのあったお店から入れている状況だ。その点ではしぼりはない。それが武蔵野市全域に広がれば、問い合わせのあったおいしいお店は網羅できると思う。
委 員	員	(サンロードにある)まち案内所は、公のものだと思っていたが、私は10年前から光専寺で落語会をやっていて、まち案内所に吉祥寺で落語会はないかという問い合わせがあつたら紹介してくれないかということは何度もお願いしたが、断られてしまった。ぴあなどの雑誌や大手の新聞の記事になっているのに、案内所では案内を断られた。
委 員	員	案内所を形成している団体に属している方に関しては、パンフレットも置き、情報も発信するというようにしているが、お問い合わせがあれば団体に属している、いないに関わらず、ネット等で調べてわかる範囲でお伝えしている。まち案内所にたくさん情報を持ってこられても結局把握しきれないので、そのように線引きしている。 落語だけでなく、多くの活動があり、ここを紹介してあちらは紹介しないとなると不公平になるので、線引きをする意味で情報を受け取るのは総合案内所運営委員会に属している方としている。
委 員	員	情報を受け取るのが総合案内所運営委員会に属している方だけであるなら、外から来た人が、公の案内所だと誤解してしまわないように、会員の店の案内だけをしているということをはっきり表明するべきではないか。それとも、多少は公の側面もあるなら、せめて文化的なイベントや画廊などは紹介するべきではないのか。吉祥寺の観光は、その文化的なイメージで支えられているところもあるのに、文化の紹介に対して冷たすぎる。
委 員	員	もちろん、お問い合わせがあつた場合は会員であろうがなかろうが、ネットで調べてお答えをしている。光専寺さんのお問い合わせに関しても、分かればお答えはしている。
委 員	員	実際に経験したことは全く異なる。落語がブームのときに、吉祥寺で落語会がないかという問い合わせがあれば紹介してほしいと、まち案内所やそこに指示を出す商店街の事務所にまで、足を運んでお願いしたが、つれなく断られた。問い合わせる人がいたら、光専寺でときどき落語をやっていると教えるだけの簡単な案内をお願いしたのに、商店街に入っていないからダメだと断られた。もちろんウェブサイトもある落語会だ。
委 員 長		時間が来たので、これでおしまいとさせていただきます。

### 3 その他

次回の会議日程・場所は決まり次第連絡する。

以上